

創刊110周年記念
誇れるふるさと
24地区リレー
〈vol.16〉

〈琴芝② 課題とキーマン〉

琴芝地区に数多くある地域づくり団体の母体となっているのが、コミュニティ推進協議会（井上博己会長）。校区創立50周年の節目を迎えた2016年、各団体と地域住民が一体となって課題に向き合おうと「自然と歴史と未来がひびきあつまち『琴芝』」を将来像として掲げた。地域資源の活用、健康づくり、地域福祉、子どもの健全育成の4分野を柱に、活力ある地域を目指しておのおのが取り組みを展開している。



真締川護岸で行われたイベント「巨大このぼりのくぐりぬげ」（2019年10月13日）

「自分のまちは自分たちで創る、実践

3世代交流や健康づくり 多彩な体験イベント開催

3・2平方キロと小さな地区でありながら市内で8番目の人口数を持つ。高齢化率は市の33・6％とほぼ同じ33・3％（22年4月現在）。出生数は人口の割に低く、少子高齢化は年々深刻化している。

そこで柱の一つとなる健康づくりでは、高齢になっても生き生きとした生活が続けてほしいと、「楽しみながら取り組み」を基本方針に掲げ、毎年春に「レッツ・エンジョイ・ウォーキング」を開催。3世代の住民が参加し、希薄になりつつある高齢者と若者の親睦を深めるとともに、健康増進に一役買っている。古里に親しみと誇りを持つてほしいと、名所や旧跡などの地域資源の活用にも力を入れる。未来に残したい琴芝の歴史を盛り込んだマップや、かたるたを制作。19年には、地区西端を流れる真締川でにぎわい創出に向けたミズベリング事業を主催し、全長353メートルの「巨大このぼりのくぐりぬげ」をはじめとする多彩な体験イベントを開催した。

美化を担う市環境衛生連合会琴芝支部（渡壁正英支部長）は、校区子ども会育成連絡協議会（小川正史会長）と協働で「SDGs 琴芝クリーン作戦」を実施するなど、子どもたちの地域活動への参加、各団体の連携や交流も大切にしている。

「琴芝には、地域に愛着を持ち、人と人とのつながりを大切にする人が多い」と井上会長。「自分のまちは自分たちで創る」という意識が大切。住民と行政が対等な立場で適切な役割を担いながら、家庭、学校、地域で手を取り合い、誰もが心豊かに触れ合えるまちを、次世代に引き継ぎたい」と話した。